学校番号	３０１８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	新編　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	基本と演習テーマ　数学Ⅰ（数研出版） 練習ドリル数学Ⅰ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、ある数学的課題について、自身で考え、周囲の者と共に解決できる活動をします。
・「ある課題について、結果を予想し、それの解決方法を考え実施し、解決の過程を振り返りよりよい方法を考える」という一連の過程で発表や議論をする数学的活動を行います。
・普段の授業ノートと問題集用のノートをそれぞれ用意してください。
・授業が終われば、毎回その授業の復習をし、内容の定着を図りましょう。
・家庭学習における課題は定期的に提出してもらいます。その際は、「答えだけでなく途中式も丁寧に書き問題を解き、その問題の答え合わせをする。もし間違っていたらどこが間違いだったのか確認し訂正する」という一連の過程を大事にしましょう。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を養い、数学的活動を通じて、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目標とする。

（１）　数と式、２次関数、図形と計量、データの分析に関する一連の概念・原理を体系的に理解している。また、ある事象を数学的に解釈し、表現・処理する技術を身につける。

（２）２次関数、図形と計量、データの分析、集合と命題に関して、事象を数学的に考えてわかりやすく表現したり、それぞれの要素を相互に関連付けて考察したりすることができる、またどの　ように思考したか振り返り多面的・発展的に考えることができる。

（３）数学のよさを認識し、意欲的に数学の技能を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて粘り強く考え、判断したりすることができる。また問題を解くにあたっての過程を振り返り、評価・改善をすることができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、２次関数、図形と計量、データの分析に関する一連の概念・原理を体系的に理解している。 ある事象を数学的に解釈し、表現・処理する技術を身につける。	２次関数、図形と計量、データの分析、集合と命題に関して、事象を数学的に考えてわかりやすく表現したり、それぞれの要素を相互に関連付けて考察したりすることができる。また、どのように思考したか振り返り多面的・発展的に考えることができる。	数学のよさを認識し、意欲的に数学の技能を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて粘り強く考え、判断したりすることができる。 問題を解くにあたっての過程を振り返り、評価・改善をすることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	第1節　式と計算 多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解	a:整式の加減、乗法、因数分解の一連の体系を把握し理解している。 b:整式の計算、整式の乗法、因数分解について数学的に考え、わかりやすく表現できる。それぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:因数分解する技術を意欲的に身につける。整式の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 提出物	提出物 アンケート
		第2節　実数 実数 根号を含む式の計算	a:実数、平方根の一連の体系を把握し理解している。 b:実数、平方根について数学的に考え、わかりやすく表現できる、またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:平方根を計算する技術を意欲的に身につける。また実数の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 提出物	提出物 アンケート
		第3節　1次不等式 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	a:1次不等式の一連の体系を把握し理解している。 b:1次不等式について数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:1次不等式を計算する技術を意欲的に身につける。問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 確認試験	提出物 アンケート

	2 次 関 数	第1節　2次関数とグラフ 関数とグラフ 2次関数のグラフ	a:１次関数、２次関数のグラフ、についての一連の体系を把握し理解している。また２次関数のグラフを応用し、ある事象を数学的に処理する技術を身につける。 b:１次関数、２次関数のグラフについて数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:２次関数のグラフを書く技術を意欲的に身につける。また関数の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期 考査 確認 試験	定期 考査 確認 試験	提出物 アンケート
2 学 期		第2節　2次関数の値の変化 2次関数の最大･最小 関数の最大値･最小値 2次関数の決定	a:２次関数の最大･最小の体系を把握し理解している。 b:２次関数の最大･最小について数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:最大･最小を求める技術を意欲的に身につける。また最大・最小の応用に関する問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期 考査 確認 試験	定期 考査 確認 試験	提出物 アンケート
		第3節　2次関数と 方程式･不等式 1.　2次方程式 2.　2次関数のグラフとx軸との共有点 3.　２次不等式とその解	a:２次方程式･２次不等式の体系を把握し理解している。 b:２次方程式･２次不等式について数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:２次不等式の解を求める技術を意欲的に身につける。２次不等式の応用に関する問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期 考査 確認 試験	定期 考査 確認 試験	提出物 アンケート

	集合と命題	集合 命題と条件 命題とその逆・対偶・裏 命題と証明	a:集合、命題、対偶についての一連の体系を把握し理解している。また対偶の知識を応用し、ある事象を数学的に処理する技術を身につける。 b:集合、命題、対偶についてそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:集合を表現する技術を意欲的に身につける。命題の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 確認試験	提出物 アンケート
3学期	図形と計量	第1節　鋭角の三角比 三角比の値 三角比の相互関係 三角比の拡張	a:三角比に関する一連の体系を把握し理解している。また三角比を応用し、ある事象を数学的に処理する技術を身につける。 b:　１８０度までの三角比について数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:三角比の値を表現する技術を意欲的に身につける、また距離、高さを測る問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 確認試験	提出物 アンケート

		第2節　三角比への応用 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	a:正弦定理・余弦定理に関する一連の体系を把握し理解している。正弦定理・余弦定理を応用し、ある事象を数学的に処理する技術を身につける。 b:正弦定理・余弦定理について数学的に考え、わかりやすく表現できる。またそれぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:面積を求める技術を意欲的に身につける。また正弦定理・余弦定理の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験	定期考査 確認試験	提出物 アンケート
	データの分析	データの分析 データの整理 データの代表地 データの散らばりと四分位範囲 分散と標準偏差 2つの変量の間の関係 仮説検定の考え方	a:代表値の一連の体系を把握し理解している。また分散と標準偏差を応用し、ある事象を数学的に処理する技術を身につける。 b:範囲と四分位範囲、分散と標準偏差ついて数学的に考え、わかりやすく表現できる。それぞれの要素を相互に関連づけて考察することができる。 c:ヒストグラムを表現する技術を意欲的に身につける。またデータの整理の問題を解くにあたり、ふり返り、評価・改善をすることができる。	定期考査 確認試験		提出物 アンケート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度